

演 題 名	介護技術向上におけるご利用者の重度化予防						
施 設 名	ケアポート板橋 特養・SS部門		発 表 者		稲垣 卓美（介護福祉士）		
活 動 の 種 類	質・安全・能率・CS・モラル・コスト	取 り 組 み 種 別	問 題 解 決 型 ・ 課 題 達 成 型				
改善しようとした問題 課 題	拘縮があるご利用者に対して、拘縮予防・緩和させる為、平成24年度よりポジショニングの第一人者、田中義行PTの外部研修に参加し、正しいポジショニングの知識・技術を学ぶ。関節の可動域が広がった等、ご利用者に良い変化がみられた。今年度も継続して取り組む事になった。						
改 善 の 指 標 と そ の 目 標 値	(指標)ご利用者に正しくポジショニングができる職員の割合（目標値） 100% ※実技テストで合格する事と、知識テストで80点以上とれば、『できる』と認定						
実 施 し た 対 策	①ポジショニングが出来ているか確認項目を挙げたチェックリストを使用 ②フロア会議にて知識、技術の確認を行う③知識テスト・勉強会の実施 ④ポジショニングプロジェクトの開催(2ヶ月に1回) ⑤スペシャリストは黄色の職員証ケースに変更⑥職員・ご家族より物品(バスタオル)の寄付を募る等						
改善指標の、対策 実施前後の変化	ご利用者に正しくポジショニングができる職員の割合 (実施前)43% 【内スペシャリスト(指導者レベル)10%】 ※スペシャリスト(指導者レベル)は (実施後)100% 【内スペシャリスト(指導者レベル)18%】 知識テスト90点以上とり、人に指導ができる人						
参考にしたグループ内の過去の事例	施設名： ケアポート板橋 / 演題名： 介護技術向上におけるご利用者の重度化予防						
チ ー ム の 名 称	specialist(スペシャリスト)		リーダー名(職種)		今田 圭介（介護士）		
			チ ー ム の 人 数		12	名	
活 動 状 況	平成25年6月～12月			平均会合時間		60	分
	会合回数		13	回	平均会合出席率		85

介護技術向上におけるご利用者の重度化予防

サークル名: specialist (スペシャリスト)
発表者: 稲垣卓美



メンバー: 高橋英子、巻嶋敏枝、中原弘二
今田圭介、中根美高、千森まゆみ、ピンク
江口智恵美、隅田仁美、星野直子、小西誠之

Vision & Work Together! with

重度化を予防する為には



不安定な姿勢続く⇒筋肉が緊張する⇒筋肉が固くなる
⇒拘縮する



こうなる

テーマ選定

活動方針: これまでに行ってきたTQM活動の管理・標準化をPDCAサイクルを活用し、更に進める事を目的とする

評価項目	満足度	標準化	定着度	職場目標	効果	実行・実現	総合評価
過去の活動内容							
H24年度 介護技術向上による 重度化予防	○	△	△	○	○	△	12
H23年度 施設生活における ご利用者の満足 度を向上させる	◎	◎	○	◎	◎	○	22

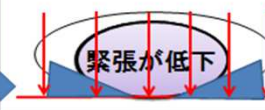
◎...5点 ○...3点 △...1点

「拘縮予防」⇒正しいポジショニングを行う事が最も重要で有効

ポジショニンググッズはバスタオルを使うのが望ましい



ただ挟むだけでは逆効果



活動計画

計画

実施

活動内容	担当	H24	H25
テーマの選定	中根	6	1
課題の明確化	巻嶋	7	2
方策の立案	江口	8	3
最適策の追求・実施	今田	9	4
効果の確認	中原	10	5
歯止めと標準化	高橋	11	6
まとめ	隅田	12	7

課題の明確化 H24年度歯止め行えているかを検証

なぜ	何を	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	統一したポジショニングを行えるように	スペシャリスト	月1回	フロア	マニュアルの見直し、検討
教育	正しいポジショニングを職員が理解できるように	スペシャリスト	年1回(10月頃)	会議室	勉強会を行う
管理	統一したポジショニングを保持できる様	スペシャリスト、主任	月1回	フロア	スペシャリストを養成する
	物品の補充	職員	年4回、不足時	フロア	寄付を募る、購入する

目標設定

何を	ご利用者に正しいポジショニングができる職員の割合
いつまでに	平成25年12月末までに
どうする	43%⇒100%にする



再：最適策の追求、実施 H25.8

方策案	シナリオ案	実現性	期待効果	障害・悪影響	処置	総合評価
1)チェックできる仕組みづくり	A)ポジショニングチェック表の作成	○	○	他部署の協力必要	依頼する	採
2)知識があるか確認	B)フロア会議で振り返る	○	○	なし	なし	採
3)勉強する場を設ける	C)職員全員を対象に知識テストを実施	◎	◎	なし	なし	採
4)定期的に職員を評価する為・職員の意欲を向上させる為	D)勉強会開催	○	◎	施設の許可が必要	稟議書	採
5)定期的に職員を評価する為・職員の意欲を向上させる為	E)スペシャリストが集まり、職員を評価(2ヶ月に1回)	○	○	時間の確保が必要	施設長に相談	採
6)物品の寄付を募る	F)スペシャリストの名札を作る	○	◎	施設の許可が必要	稟議書	採
7)物品の収納場所をつくる	G)職員新聞に記載・家族に手紙	◎	◎	なし	なし	採
	H)洗濯室の整理	◎	◎	なし	なし	採

H24年度活動内容①

職員全員が正しいポジショニング方法を習得できるようにする

誰が	いつ	何を	どこで	どうする
A フロアリーダー	H24.8.25	研修	外部	拘縮の知識と予防法の研修に参加する
B フロアリーダー	H24.9	勉強会の開催	会議室	職員全員を対象に実施
C TQM委員	H24.8.1~	拘縮予防のDVD	休憩室に	準備する
D TQM委員	H24.9.30	手順のマニュアル	ステーション	作成し、掲示
E 隅田	H24.9.24	ご利用者毎のマニュアル	各居室	作成、床頭板に掲示
F 隅田	H24.9.15	職員に物品の寄付を	事務所	職員新聞にて呼びかける
G 隅田	H24.9.15	ご家族に物品の寄付を	事務所	手紙を郵送し、お願いする

攻めどころの明確化 ~攻めどころ選定シート~

特性・項目	ありたい姿	現在の姿	ギャップ	攻めどころの候補	期待効果	採否
特性	正しくポジショニングを行える	正しくできる職員の割合100%	正しく出来る職員は43%	57%	-	-
特性を実現させる項目	①統一した技術	正しく行えたか確認できる	確認できていない人がいる	判断にばらつきがある	知識・技術の統一	◎ 採
	②教育	知識の理解100%にする	知識がある職員は43%	勉強会は年1回では足りない	教育の機会を増やす	◎ 採
	③管理	指導できる職員が増える	指導できる職員が少ない	スペシャリストが不足している	スペシャリストを増やす	○ 採
	④物品	バスタオルが沢山ある	洗濯等に出すと足りない	バスタオルが不足している	バスタオル補充	◎ 採

方策立案

攻め所(着眼点)	方策案	期待効果	評価	採否	順位
技術、知識の統一化	1)誰でも簡単にチェックできる仕組みをつくる・2)知識の確認	誰でも同じようにチェックできる・知識が身に付く	5	採	1
教育する場を増やす	3)年1回の勉強会の開催	知識を忘れない様にする	4	採	2
スペシャリストを増やす	4)定期的に職員を評価する	職員の意欲を向上させる	2	採	4
物品を補充・管理する	5)職員、ご家族より寄付を募る・6)物品の収納場所を確保する	物品が集められる・収納場所を増やす事ができる	2	採	1

追加：最適策の実施

誰が	いつ	何を	どこで	どうする
A 看護	毎回	技術が正しいか確認する為	フロア	チェックリストを使用し確認
B 職員	月1回	フロア会議にて	フロア	知識、技術の確認を行う
C TQM委員	12/11 12/15 12/20	知識テスト	フロア	職員全員を対象に行う
D スペシャリスト	10/8 12/11 12/20	勉強会	会議室	全職員を対象に開催
E スペシャリスト	2ヶ月に1回	定期的に職員を評価する為	会議室	スペシャリストが集まる
F TQM委員	10月	スペシャリストを明確にする為	フロア	スペシャリスト用名札を作成
G ケアマネ	8月中	物品の補充	事務所	職員新聞にて呼びかけ・家族に手紙にて呼びかけ
H TQM委員	11/13 11/20	洗濯室の掃除・整理	洗濯室	TQM委員で行う

シナリオ A,B)

ポジショニングチェックリストの使用、振り返り

確認する職員によって正しく行えているか、判断にばらつきがあった

チェック項目をあげたチェックリストを使用

日付	時間	氏名	○…出来ている △…惜しい ×…出来ていない			備考
			ねじれていないか?	隙間が空いていないか?	顎がひきついて、肩甲骨が外側になっているか?	
//	:	A 様	○	△	×	
//	:	B 様	△	×	△	
//	:	C 様	○	○	○	

月1回、フロア会議にて振り返り

シナリオ E)

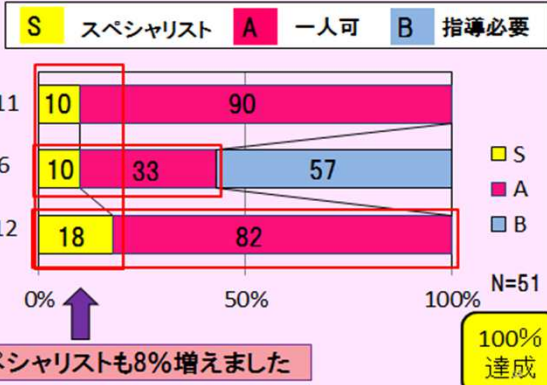
ポジショニングプロジェクト



職員の評価、スペシャリストの育成

再 効果の確認 H25.12

ポジショニング技術レベルを知識テストと実技テストで調査



取組の成果 A様 ベッド上



シナリオ C)

10月の勉強会の様子

田中義行先生(PT)を当施設にお招きし、指導して頂いた



理論、技術共に周知徹底させることができた

シナリオ F)

職員の意欲向上(意識づけ)



スペシャリストを目指そうと意欲が向上した
スペシャリストを手本にするようになり、
スペシャリスト自身も使命感が向上した

ポジショニング対象者 A様の様子

H25.6 A様



取組の成果 A様 車いす上



足が浮いている

実施前

足が着く様になった

実施後

波及効果

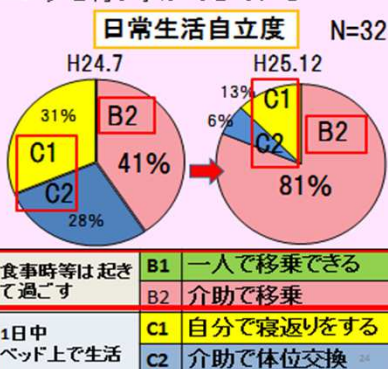
特養全体で取組む事で、現在では、ご利用者32名を対象に正しいポジショニングを行う事ができている



対策前



対策後



良かった点・悪かった点

	良かった点	悪かった点
テーマ選定	ご利用者、ご家族の満足向上につながるテーマだった	
課題の明確化	いかに歯止めが重要か認識できた	
方策の立案	チェックリストを作成する事で、技術統一化するシステムを構築できた	立案～実施までの時間を要した
最適策の追求・実施	動画で表現する事により、より分かりやすくなった	シフトの都合で勉強会の開催時期が遅れた
効果の確認	ポジショニングを行う事で、ご利用者の生活が変化した	職員に技術を周知させるのに苦労した
歯止めと標準化	見直しをした事で、再度、目標を達成でき、継続して行えている	スペシャリストがまだ少ない

最後に...

～介護職員として～



膝関節伸展の可動域を測定

氏名	H24.11		H25.6		H25.12	
	右	左	右	左	右	左
F様	-90°	-85°	-90°	-95°	-90°	-100°
M様	-90°	-80°	-100°	-90°	-80°	-90°
K様	-70°	-70°	-80°	-80°	-80°	-90°
A様	-105°	-115°	-140°	-125°	-100°	-90°

維持、または改善傾向にある

A様イメージ

左



40° 伸びた

H25年度 歯止めと標準化

H25.12

なぜ	何を	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	統一したポジショニングを行えるように	スペシャリスト	月1回	フロア	マニュアルの見直し、検討
		看護	毎日	フロア	正しく出来ているかチェックリストを使って、確認する
教育	正しいポジショニングを職員が理解できるように	ポジショニングプロジェクト	年1回(10月)	会議室	勉強会を行う
		職員	月1回	フロア	フロア会議で確認
管理	スペシャリストを増やす為	ポジショニングプロジェクト	2ヶ月に1回	フロア	会議を行い、職員の評価をする
			年4回、不足時	フロア	寄付を募る購入する

今後の課題

・ポジショニングプロジェクトにて、職員を評価・教育するしくみをつくる

・スペシャリストを今以上に増やしていく

・拘縮があるご利用者に対してのポジショニングを行ったが、現在拘縮がないご利用者に対しても早期対応していく



ご清聴ありがとうございました



参考文献 「拘縮予防改善のための介護」

中央法規 田中義行著